

さくら

SHIZUOKA KOKUSAI HOSPITAL COMEDICAL FREE PAPER

2020. 2 No. 75

JA静岡厚生連 清水厚生病院 医療協力部門



貼り薬といえは何をイメージしますか？

「貼り薬」といえば、痛み止めの湿布を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。実は他にも、血圧を抑えるものや気管支を拡げて呼吸を楽にするものなど様々な貼り薬があります。なかには湿布のような感覚で使ってしまうと、薬の効果が十分に発揮されなかったり、逆に副作用が出てしまうものもあります。

貼り薬をより多くの方に安心して使っていただくため、今回は貼り薬についてご紹介します。

◇貼り薬の特徴

- ・持続的な効果がある
- ・食事の影響を受けずに使用できる
- ・薬が飲めない方にも使用できる
- ・薬の表面に日時を書くことで、いつ貼り替えたかを確認できる



◇貼り薬の種類

- ・**局所作用型**：貼った部分に効く貼り薬
例) 痛み止めの湿布
- ・**全身作用型**：全身に作用する貼り薬
*薬の成分が皮膚から一定の速度で吸収され、血液を通して全身に作用する
例) 狭心症・高血圧・喘息・更年期障害など

☆貼りかた、剥がしかたのポイント

- ・貼る部分の水分や汗をよく拭き取り、清潔な状態にして貼ってください。
- ・皮膚がかぶれないように、剥がす時はゆっくり剥がして下さい。



◇Q&A コーナー◇

薬局の窓口でよくよせられる相談内容を紹介します。



Q 皮膚のかぶれが起こります。どうしたらよいのでしょうか？

A. **基本的には医師と相談になります。**

皮膚のかぶれの原因は、大きく分けて3つのタイプがあります。

① **刺激によるかぶれ**

対策

- ・薬を休業する（皮膚を一時的に休ませるため）
- ・全身作用型の貼り薬は貼る場所を少しずつ変える
- ・かぶれ予防のため保湿する（皮膚のバリア機能を上げるため）
*貼り薬は保湿剤を塗った場所を避けて使用してください。

② **アレルギーによるかぶれ**

対策：かぶれの原因となった薬を中止する

③ **光（紫外線）によるかぶれ**

対策：紫外線を通しにくい濃い色又は厚手の服を着る



Q 薬は切って使えますか？

A. **切ってはいけないものと、切ってよいものがあります。**

切ってはいけない貼り薬は、薬の吸収に影響するため、薬の説明紙に「切って使用しないでください」と記載されています。
*心配な場合は、医師や薬剤師に相談してください。



◇コラム◇

～貼り薬でやけど！？～

一部の狭心症の薬には金属が含まれています。その貼り薬を貼ったままMRIやAEDを使用すると、貼っている部分にやけどが起こることがあります。基本は事前に貼り薬を剥がしてから使用してください。

*貼り薬を使用している時は、事前に医師、薬剤師、放射線技師等に相談して下さい。



◇最後に◇

飲み薬に限らず、貼り薬も用法・用量を守って正しく使ってください。薬について何かわからないことがありましたら、医師や薬剤師に気軽にご相談してください。